

海外安全対策情報（令和3年1～3月期）

1 治安情勢・一般犯罪の傾向

(1) NSW州

治安情勢は安定しており、新型コロナウイルスの感染拡大以降減少傾向が続いていたNSW州全体の犯罪発生率も、一部罪種を除き依然として減少傾向にある。一方、性犯罪事案については多くの地域で増加傾向に転じており、夜間の一人歩きを避けるなど注意されたい。

顕著な犯罪の増加傾向が認められる地域は以下のとおり。

○シドニー地域

Blacktown：強姦（+35.6%）

Central Coast：強姦（+21.7%）

Parramatta：強姦（+23.9%）

○Capital Region：暴行・傷害（DV関連）（+15.7%）

○Coffs Harbour - Grafton：暴行・傷害（DV関連）（+20.0%）

○Mid North Coast：強姦（+22.1%）

○Murray：強姦（+25.0%）

○Richmond - Tweed：強姦（+19.0%）

○Riverina：強姦（+34.0%）

(2) 北部準州

治安情勢は安定しており、犯罪の総数に大きな変動はない。しかしながら、窃盗、住居侵入等の所有権侵害犯罪は減少傾向にある一方（前年比-12.5%）、暴行・脅迫、性犯罪等の対人犯罪は増加傾向にあり（前年比+20.5%）、注意を要する。

特にアルコール絡みの暴行・傷害事案が急増しており、夜間にバーを訪れたりその周辺を通行する際は、ケンカ等に巻き込まれないよう注意されたい。

2 邦人被害

1月、シドニー市内において、Australian Dayを「先住民に対する侵略の日」としてとしたデモが行われ、参加者の一部が警察官の指示に従わなかったとして逮捕されており、このようなデモを認知すれば、速やかにその場を離れる等の注意が必要である。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ここ最近において、シドニーでのテロの発生はないが、昨年中、インターネット上でテロを扇動していた男が逮捕されるなど、当地におけるテロの潜在的脅威は存在している。また、昨年12月には、QLD州でIS（イスラム国）の影響を受けた男が隣人2名を殺害するテロ事件が発生しており、特に人の集まる場所におけるテロの可能性について警戒を要する。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

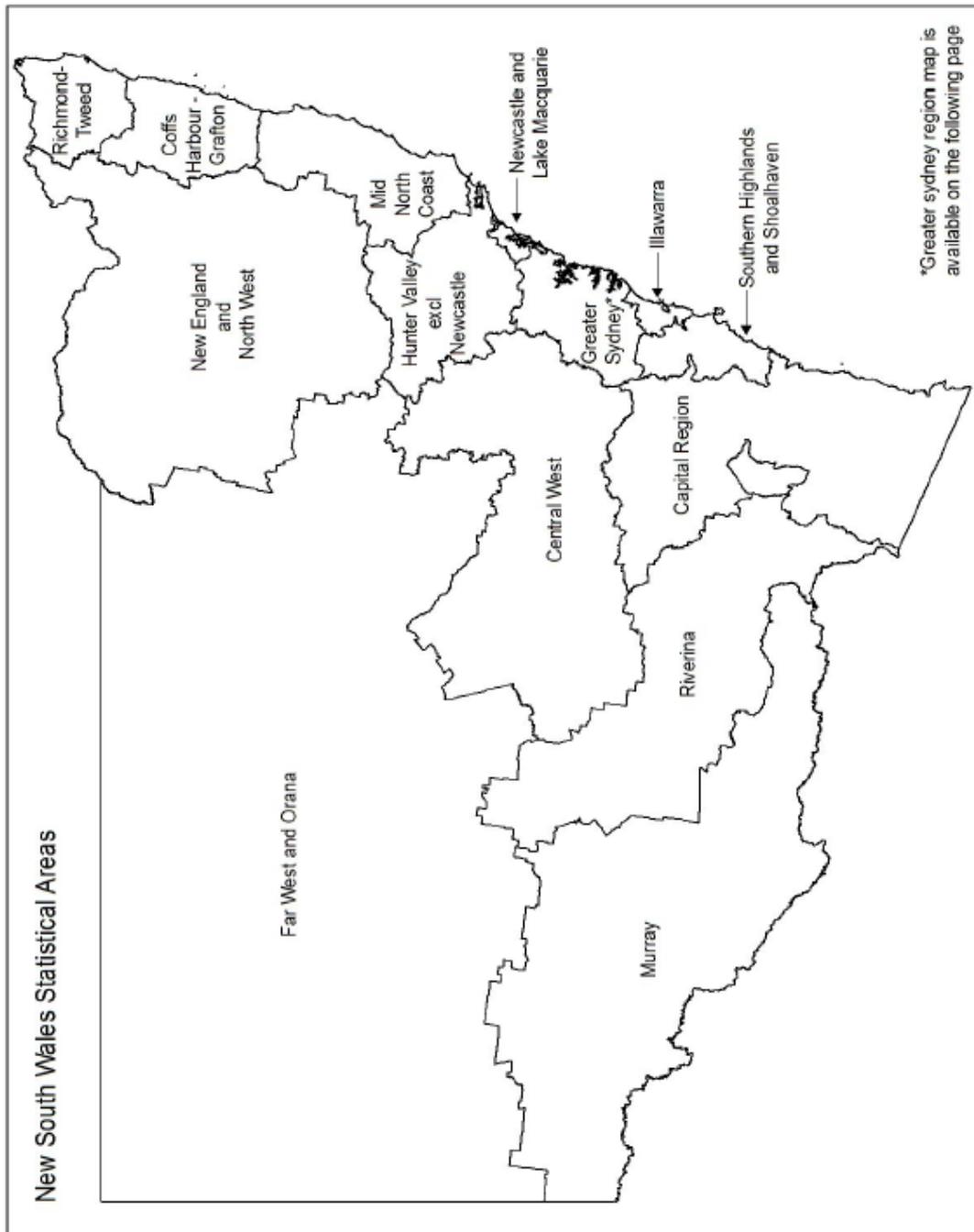
特段注意を要する事件・情報は認知していない。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

昨年中は特段の動向は見られなかったものの、一昨年中、シドニー市内において、我が国に対する抗議デモが2件（慰安婦問題、反イルカ漁）行われており、これら団体の動向等について引き続き注意を要する。

※統計は、NSW州犯罪統計局及び北部準州警察の公表に基づく（統計期間：2020年1月から2020年12月までの1年間（北部準州は2020年2月から2021年1月までの1年間）と前年同期との増減率）。

APPENDIX 4: NSW & GREATER SYDNEY STATISTICAL AREA MAPS



APPENDIX 4: NSW & GREATER SYDNEY STATISTICAL AREA MAPS

